

製品名: クローディン 1 (5F6) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe08890**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,FC,IP
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン (pH 7.4)、0.15M NaCl、40% グリセロール、0.01% 新タイプ防腐剤 N、および 0.05% 保護タンパク質で供給されます。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:200,ICC/IF 1:500-1:1000,FC 1:50-1:100,IP 1:50-1:100
分子量	23kDa

抗原情報

遺伝子名	CLDN1
別名	Claudin1; CLD11;CLDN 1; ILVASC; SEMP1;
遺伝子 ID	9076.0
SwissProt ID	O95832
免疫原	ヒトクローディン 1 の合成ペプチド

背景

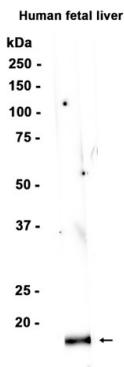
クローディンファミリーは 23 種類の膜タンパク質から構成され、その発現は組織の種類によって異なり、上皮バリアの強度と特性の

両方を決定している可能性があります。クローディンタンパク質の発現パターンの変化は、いくつかの種類の高と関連しています。クローディン-1は主にケラチノサイトと正常な乳腺上皮細胞で発現しますが、乳癌および乳癌細胞株では発現が欠如しているか、または低下しています。クローディンは、上皮の透過性を制御するタイトジャンクション複合体の主要構成要素として機能します。クローディンファミリーのメンバーの中には、不透過性バリアの形成に重要な役割を果たすものもあれば、イオンや小分子の透過性を媒介するものもあります。多くの場合、複数のクローディンファミリーメンバーが共発現し、相互作用することで、全体的な透過性が決定されます。CLDN1は、表皮のタイトジャンクションを通過する小分子の細胞間拡散を防ぐために必要であり、皮膚の正常なバリア機能に必要です。CLDN1自体はケラチノサイトのタイトジャンクションにおける水分バリア形成には不要であると考えられるため、他のタンパク質の発現レベルへの間接的な影響を介して、正常な水分恒常性と皮膚からの過剰な水分損失の防止に必要です (PubMed:23407391)。

研究分野

細胞生物学

画像データ



Claudin 1 (5F6) ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用した、ヒト胎児肝臓組織抽出物のウエスタンブロット分析。